

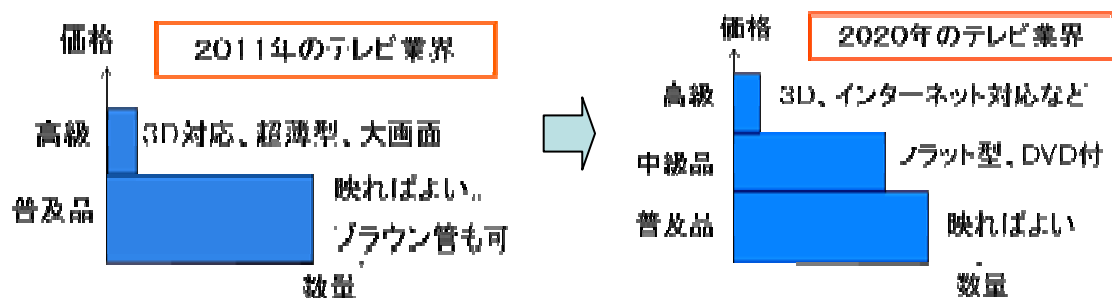
日本企業の問題点を探り、変化する世界情勢にどう対処すべきか考えてみよう。

1) ソニーは第1と第2に分社化し、第2ソニーはHQを上海に置くべし

長く G7 が支配していた世界経済は、BRICsを中心とした G20 に経済の中心が移り、年収3000ドルの人口が急増加してこの層の人達にはテレビなら3万円以下でなければ売れない。このような普及品が主戦場となり日本企業が苦戦している。ソニー、パナソニックはもとより、サムソンですらテレビ事業は赤字に陥ったと報じられている。私は常々ソニーの人に提案しているのは、分社化して3万円テレビの事業を扱う第2ソニーは上海にヘッドクォーターを置き、従来のソニーらしい時代を画するような新製品を開発する第1ソニーは日本本社が中心になる。最近ソニーは、部品の購買先を5000社から2000社に絞り込んで経営状態が改善したと言われている。しかし、これは第2ソニーに当てはまることであって、第1ソニーでは少々高価でも良い部品は採用すべきで、購買先など幾ら増えても良い。要は、第1ソニーと第2ソニーの経営手法が異なることであり、これを1社内でも共通に処理をすることは色々な無理が生じる。これはソニーに限らず日本の全ての家電メーカーに言えることであろう。また、20万円の自動車が見られた自動車業界でも同様であろう。「日本企業には、G20諸国の大量普及帯を狙うには、かなりの発想の転換が必要である。」

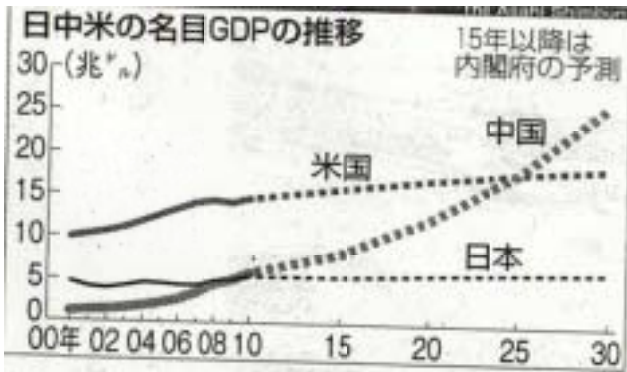
2) 長期的な視点；普及品市場はいつまで続くか

G20の人々には、テレビは3万円、自動車も20万円の時代となって、そのような普及帯のビジネスをどうするかが議論されている。当面はその通りかも知れないが、人々がいつまでも安価な普及品で満足するかは長期的な視野で見るべきで、いずれ下図のように中級から高級品へ移行するのではなからうか。特に自動車などは普及品からの移行は必須だと思われ、日本企業の出番もあるのではなからうか。「5～10年レンジで、世の中の動きの読みが重要である。」



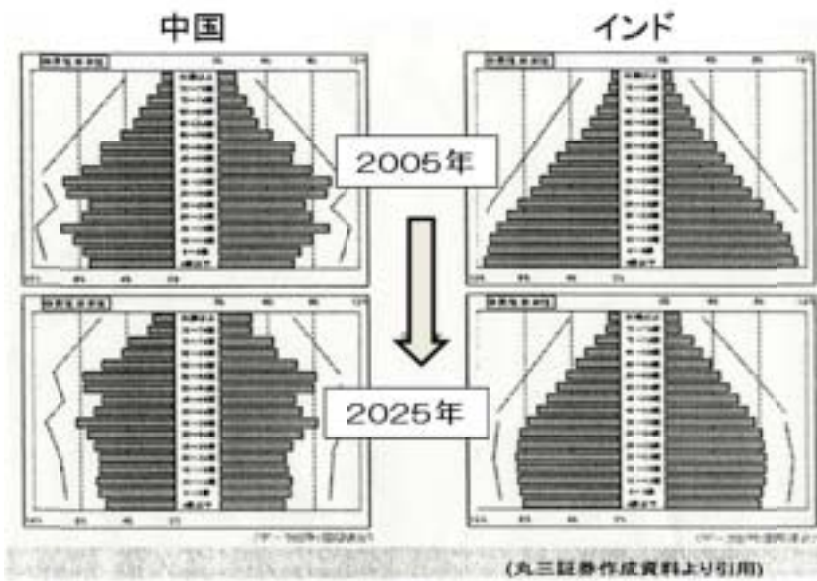
3) 中国発展のカギは何か

中国のGDPが日本を抜いたことが報じられている。しかし、そんな事は決して重要でなく、下のグラフのようにいずれアメリカをも抜くと予想されている。何故、中国は発展するのか？ 共産主義だから良いのか？ 上海空港から市内へ向かう時速430キロのリニアモーターカーに乗り、日本へ帰国して成田空港の滑走路一つ広げられない現状を見ると、土地を国有化している共産主義の良さが実感できる。お役人が地図に線を引けば直ぐに電車が走り高速道路が出来るのである。だが、中国にとっての最大の問題は、言論統制や人権抑圧がいつまで続けられるかであろう。経済が発展している内は不満も消えているかもしれないが、格差が広がったりするといつか爆発する。まだ地下深く不満のマグマが溜まっており急には噴火しないがいずれ爆発し、政治体制にひびが入り、経済が停滞する可能性を考えておくべき。台湾との関係も、台湾と中国の指導者が穏便な内は良いが、果たして20年も現状が続くかどうか？



4) 先々は、中国よりインドか？

中国は政治体制さえしっかり舵取りすれば揺るぎない将来が約束されているように見える。しかし、人口構成グラフを見ると、15年後の2025年には、日本のように老人大国になっている。その点、インドは全く若い国で、15年後の国としての勢いはどちらが上だろうか？



インドは欧米企業がかなり進出しているが、日本企業が出遅れている感じである。かなり先を見て企業のグローバル化を考えるなら、中国一辺倒で良いのか考えるべきであろう。ただし、インドにはカーブ制の影響が今なお大きな問題として残っているが。

「目先、中国の勢いは圧倒的だが、10～20年後の世界はどうか？」

5) 行き着く所はアラブか。資源国の威力にどう対処

下図は、半導体の主役が西へ西へと移動している様子を表しており、いずれお金のあるアラブが中心になると数年前に予測した。事実、アブダビ資本がアメリカへ4000億円もの巨大投資して半導体ファウンダリー会社を設立し注目されている。石油はいずれ枯渇するとしても現状では巨大な資源である。またレアアース金属なども、日本が頭を下げて売って頂くような状況になって、今後は資源のあるところが有利になろう。働かざるもの食うべからずと言うが、もの作りに汗を流して努力している国から見れば、このような不公平を正すような国際的な仕組みが出来ないか。例えば、石油の売価は製造原価の10倍だそうであるが、「あらゆる商品は製造原価の3倍以上で売ってはならない」などの国際協定を作りたい。とても夢物語でしかないが。



半導体の生産は西へ西へ

このような世界情勢の中で、日本企業はどのようなものづくりを目指せば良いのか、次回考察しよう。